

アニメーション動画仕様詳細

1 業務内容

男性を主人公としたアニメーション動画及びサムネイルの制作。
関係機関との打合せ、取材、資料収集
企画、動画構成、ストーリー作成、キャラクター絵柄複数提案、
キャラクターデザイン作例提案と提出
各段階における関係機関への意図説明や確認、修正
その他作成に必要な編集・調整等

2 規格等

納品動画：YouTube 用（①60 秒、②15 秒）

Instagram リール動画用（①60 秒、②15 秒）※秒数は構成次第で検討

デジタルサイネージ用（①画面比率 16:9、②画面比率 9:16）※各 15 秒

その他納品物：Youtube・Instagram 用サムネイル

色：カラー

音声：あり ※ただし、音声なしでも理解できる内容（字幕または映像内テキスト処理）

配慮事項：どのバージョンも再生開始から 0～3 秒以内に続きを見たくなる描写や表現
（テロップやその文言、アニメ上のデザイン等）を入れ込むなどで離脱を防
ぎ、完全視聴を狙える構成を提案すること。

配信媒体のトレンド・アルゴリズム等も配慮した動画構成の提案。

3 構成等

(1) コンセプト

「その一歩で、浜松を支える。」

“消防団は、特別な人じゃなくていい”

- ・「できる人」ではなく「一歩踏み出す人」にフォーカス
- ・“体力・覚悟・時間” への不安を、日常の延長線で解消
- ・対照的な 2 人を登場させるなど「自分と同じだ…」という共感を広げる

(2) 主要キャラクター

- ・会社員男性 A：体力自信あり
- ・会社員男性 B：体力自信なし

- ・子ども：6歳（男の子）、3歳（女の子）
- ・現役男性団員

(3) ポイント

- ・仕事や家庭との両立ができることを感じさせる
- ・体力に自信がなくても、様々な形で関われる
- ・“できそう”のみならず“続けられる”と感じさせる

(4) ストーリー例と主要ポイント

※下記はあくまで例であり、構成提案を行うものとする。

【コンセプト・構造】

- ・対照的な2人（できそうな人／無理と思っている人）で共感の幅を広げる
- ・“扉”を使って「心理的ハードル」を視覚化
- ・「みんなができる」というメッセージを一貫して表現

【導入（興味喚起）】

- ・日常シーンからスタート（ジム／自宅）
- ・消防団に対する“よくあるイメージ”をセリフで提示
（体育会系・大変そう・自分には無理）

【きっかけ設計】

- ・2人が同時に違う形で「消防団募集」に触れる
（Instagram、学生広報隊イベント）
- ・“自分ごと化”の入口をシンプルに描く

【不安・思い込みの明示】

- ・男性Aは「できそう」
- ・男性Bは「無理」と感じる
- ・視聴者自身の不安を代弁させる

【誤解の解消（中身の提示）】

- ・活動は体力勝負だけではない
- ・“役割の多様性”をテンポよく見せる
- ・「できることからいい」と伝える

【ハードル低減（時間・生活）】

- ・訓練は月 1～2 回・休日早朝であることを自然に表現
- ・家族との時間が確保できることを描写で伝える（説明しすぎない）

【共感・感情訴求】

- ・子どもからの「かっこいい」で承認欲求を刺激
- ・家族との温かいシーンで安心感を醸成

【変化の提示】

- ・想像より負担が少ないと気づく
- ・「自分でもできるかも」に変化
- ・“誰でも消防団員になれる” という結論へ

【締めメッセージ】

- ・「一歩踏み出すこと」が価値であると強調
- ・地域貢献を“身近な行動”として提示
- ・浜松市消防団の募集へ自然に接続

【15 秒版の要点】

- ・対比 → 扉 → 多様性 → 家族 → メッセージ
- ・“誤解の否定”と“安心感”を最短で伝える構成

【ストーリー例 60 秒版ストーリー】

- ・0～2 秒（フック兼広告）
 - 街中のポスターに書かれたワードの寄りがドンと映る（超短尺）
 - 文字（広告内）「消防団員募集」
 - に男性Bの音声「消防団？無理でしょ！」を載せる
- ・2～5 秒 | 導入（対比）
 - 画面左右に分割
 - 左：男性A：27 歳男性
 - ジムで軽くトレーニング
 - 右：男性B：32 歳男性
 - ソファでスマホ

- 6～12 秒 ～共通のきっかけ～
 - 街中で「消防団員募集」の掲示（浜松市消防団と分かる様にする）
 - 2 人とも同じポスターを見る

- 13～20 秒 | それぞれの“思い込み”
 - 男性A：「体力ちょっとあるし、やれるかも…」
 - 男性B：「いやいや、体育会系でしょ…無理無理」
 - ここで“扉”のビジュアル出現（象徴表現）

- 21～30 秒 ～扉の前～
 - 2 人とも同じ扉の前に立つ（現実と比喩の融合）
 - 扉にはうっすら文字
 - 「消防団」
 - 男性A： 少し迷いつつも前向き
 - 男性B： 不安そうに一歩引く
 - ナレーション：「できることから、でいい。」

- 31～45 秒 ～扉の中～
 - 扉を開けると…消火訓練だけではなく
 - 資機材点検
 - 広報活動
 - 救命講習
 - 談笑する団員
 - ※“多様な役割”を本当の活動内容でテンポよく示す
 - ナレーション：「活動は、ひとつじゃない。」

- 46～52 秒 ～家庭との両立～
 - 日曜早朝の軽い訓練風景（爽やかに短く）
 - 団員服で帰宅
 - 子ども（6 歳男の子）「パパかっこいい！」
 - 子ども（3 歳女の子）「おかえり～」
 - ※子供たちが走ってお出迎え
 - 家族とのごはん

- ・ 53～58 秒 ～2 人の変化～
男性A：「思ったより、ちゃんと生活できる」
男性B：「俺でも、できるかも」
→2 人が笑顔で並ぶ
- ・ 59～60 秒 ～締め～
扉が再び映る（今度は開かれている）
テロップ：「その一歩で、浜松を支える。」
浜松市消防団員 募集中

【ストーリー例 15 秒版ストーリー】

- ・ 0～2 秒
ポスターの消防団員募集の文字
男性Bの音声「消防団？無理でしょ！」
- ・ 3～6 秒
2 名対比（ジム vs ソファ）
2 人とも扉の前に立つ
- ・ 7～10 秒
多様な活動（高速カット）
- ・ 11～13 秒
家族とのシーン「パパかつこいい！」
- ・ 14～15
テロップ：「その一歩で、浜松を支える。」
浜松市消防団員 募集中

【補足】

- ・ アニメーションはややリアル寄り、親しみやすさ
- ・ 色味は温かみ（地域・家族感）
- ・ 扉の表現は硬いドアではなく、柔らかい光の入口にすると心理的ハードルが下がる
- ・ BGM は前半控えめ→後半明るく展開